

DE6
7



0024135-000

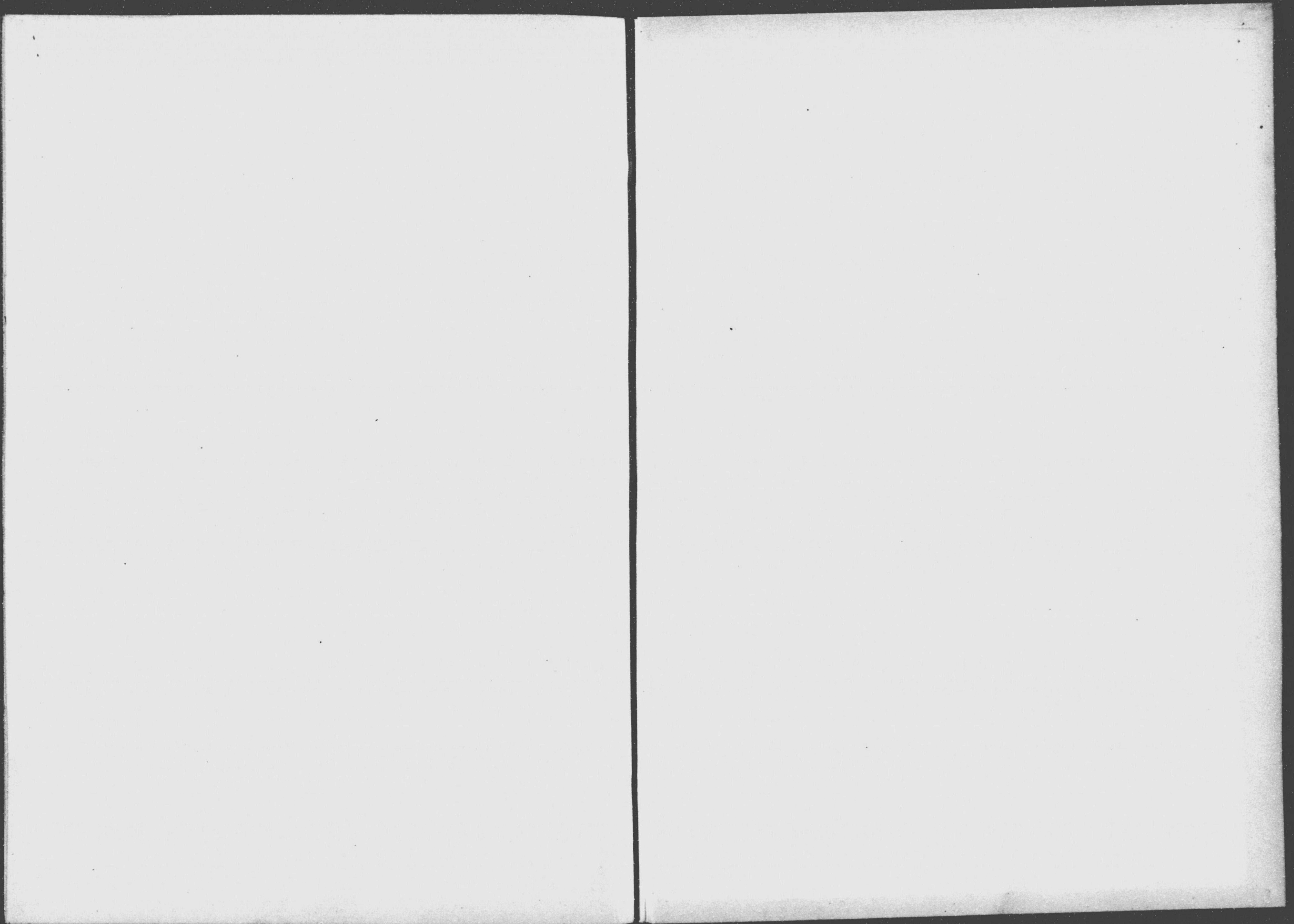
DE6-7

上海ヲ中心トスル英国勢力ノ破
壊方策

日滿財政經濟研究会

[1936?]

ADD



極秘

上海ヲ中心トスル英國勢力ノ破壊方策

11677

DE 6
7



方 主	策 旨	內 容	目 次	頁
上海港ノ封鎖	一	一	一	一
(一) 貿易阻止	一	一	一	一
(二) 商船會社破壞	一	一	一	一
(三) 上海ヲ圍繞スル鐵道破壞	一	一	一	一
(四) 上海ニ於ケル金融機關破壞	一	一	一	一
(五) 通信機關破壞	一	一	一	一
(六) 紡績工場破壞	一	一	一	一
(七) 造船所ノ破壞	一	一	一	一
(八) 其他ノ工業	一	一	一	一
(九) 石油タンク爆破	一	一	一	一

775419

上海ヲ中心トスル英國勢力ノ破壞方策

主旨

上海ハ政治上、經濟上、國防上名實共ニ支那隨一ノ要地デアル。中部支那ハ勿論北支モ南支モ上海ニ依存スルコト極メテ大ナリ。從ツテ上海ヲ徹底的ニ鑿破スルハ全支那制覇ノ第一歩ニシテ目的ノ大半ヲ達成セリト言フコトカ出來ル。(第一表)

更ラキ上海ノ制覇ハ即チ中部支那ノ制覇ナレハ、コノ方面ニ多大ノ權益ヲ有スル英國ニモ亦多大ノ打撃ヲ與フル事トナル。

而シテ此ノ場合、左ノ諸點ニ關シ特ニ留意スルヲ要ス。

一 日支事變ハ宣戰布告シ居ラス

ニ 米國トノ親善關係ノ促進

三 表面上英國トノ親善關係ヲ持續シ、抗議ノ余地無カラシム

四 上海ハ國際港ナリ

五 揚子江ハ國際河川ナリ

從ツテ支那ノ武力的破壞ニヨリテ間接ニ英國權益ニ打撃ヲ與フル方

向ヲ採ルヘキテアル。

方策

上海港ノ封鎖

(一) 貿易阻止

(二) 外國貿易

近年ニ於ケル全支貿易ニ於イテ最モ重要ナル國ハ米國ニシテ日本、英國、獨乙カ之レニ次イテキル（第二表）

然シ植民地ヲモ含メタ場合ニハ斷然英國カ第一位ニシテ米國之レニ次キ、日本、獨乙ノ順序テアル（第三表）

然シテ對支貿易ニ於イテ受取勘定ノ最モ大ナル國ハ英國（本國）ナレハ、支那ノ混亂ニ依リ貿易上最モ損害大ナル國ハ英國テアル（第二表）

次ニ上海港ニ於ケル主要國貿易額ヲ見ルニ第一位ハ米國ニシテ英國、日本、獨乙カ之レニ次イテキル。受取勘定ノ多イ國ハ獨乙、英國、米國、日本ノ順序テアル（第四表）

從ツテ上海港ノ封鎖ニ依ツテ相當英國ハ打撃ヲ蒙ル。即チ英國ノ對支貿易ノ大半ハ上海港ニ於イテ行ハレテキルカラテアル（第五表）

支那自身ニトツテモ亦外國貿易ノ大半ハ上海港ニ於イテ行ハレテキルカラ、ソノ封鎖ニヨツテ大打撃ヲ蒙ル事ハ必然テアル（第六表）

尙ホ上海港貿易ニ於ケル獨乙ノ地位ニモ留意スル要アリ。
（四）國內貿易

國內貿易ニ於ケル上海港ノ地位モ亦絶對的ニ大テアル（第七表）從ツテ上海港ノ封鎖ハ右述外國貿易ノ打撃ト共ニ經濟的苦痛ヲ倍加スル。

英國モ亦同様テアル。即チ支那ニ於ケル英國商船ノ大半カ國內貿易ニ從事シテキルハカリテナク（第八表）上海港ニ於ケル國內貿易就航外國船ノ中大半ハ英國船テアル（第九表）從ツテ上海港封鎖ニ依ル國內貿易ノ亂ニ依リ、最モ大ナル打撃

ヲ蒙ムル國ハ支那自身ト英國トテアル。

W 商 船

支那ニ於ケル各國船數ノ中斷然英國カ多イ（第十表）

然カモ上海ヲ中心トシテ揚子江沿岸貿易就航カ多イカラ、上海港封鎖ノタメ外國貿易、國內貿易激減ノ結果運賃收入方面ヨリ大打撃ヲ蒙ル。

U 關稅收入

貿易ノ減少ハ關稅收入ノ減退ヲ伴フ。然ルニ關稅收入ハ支那財政ニ於イテ最モ重要ナル財源テアル（第十一表）

更ラニ關稅收入ハ國債發行ノ擔保物件テアル（支那テハ國債ヲ發行スルノニ擔保ヲ必要トスル）内國債ノ場合ノミナラス鐵道借款モ亦多ク關稅收入ヲ擔保トシテキル。從ツテ關稅收入ノ減少ハ國民政府ノ信用ヲ低下セシメ、内外債ノ募集ヲ困難ナラシメル（第十二表）

カクノ如ク上海港封鎖ハ貿易ヲ減退セシメ、關稅收入ノ減少從

(一) 上海ニ於ケル金融機關破壞

那鐵道ハ勿論、附錄第二所載中ノ英國鐵道京滬線、滬杭甬線ノ燬破ハ最モ急ヲ要ス。

(二) 上海ヲ圍繞スル鐵道破壞

上海港ノ封鎖ヲ完全ナラシムル爲ニハ海上ノミナラス陸上ニ於イテモ之レニ伴ツテ手段ヲ講シナケレハナラヌ。從ツテ上海附近ノ支那鐵道ハ勿論、附錄第二所載中ノ英國鐵道京滬線、滬杭甬線ノ燬破ハ最モ急ヲ要ス。

(三) 商船會社破壞

海港上海ヲ封鎖センカ爲メニハ支那商船會社ハ勿論、英國商船會社ノ活動力ヲ阻止シナケレハナラヌ。コノ事ハ貿易阻止ト聯關シテ當然ナ處置テアル。今、上海ニアル英國資本ノ商船會社ヲ示セハ附錄一ノ如シ。

ツテ租稅收入ヲ激減セシメ、國債發行ヲ困難ナラシメル。

關稅收入ノ中約半分ハ上海ニ於ケル收入テアルカラ、上海港ノ封鎖ハ敍上ノ如ク支那ノ財政的經濟的混亂ヲ招來スルニ充分デア

ル(第十三表)

Table 13: A table with multiple columns and rows, likely containing financial data related to the text. The text is very faint and difficult to read.

上海ニ於ケル紡績工業ハ日英支對立ノ狀態ニアル。然シテ英國紡績會社ハ全部上海ニアル。附錄五ノ如シ。

(七) 造船所ノ破壞

上海ニ於ケル英國造船廠ハ附錄六ノ如ク三廠アリ。上海港封鎖ヲ完カラシメ、揚子江ノ交通妨害上最モ必要ニシテ支那兵ヲシテ砲撃セシムル様誘致スヘキコト勿論テアル。

(八) 其ノ他工業

英國資本ノ其ノ他ノ工業トシテハ上海ニ煙草、洋灰等種々アルモ詳細ハ不明、附錄七ノ如シ。

(九) 石油タンク破壞

英國ノ石油ニヨル世界制覇ノ代表機關カ上海ニ在ル以上、支那ヘノ燃料提供ヲ防止シ兼ネテ英勢力挫折ノ爲メ、石油倉庫ノ爆破ハ當然敢行スヘキモノテアル（附錄八）

第一表

日英米の對支事業投資地方別表

(單位旧平價換算の千円)

地方別	英 國		米 國		日 本	
	投資額	総額に對する%	投資額	総額に對する%	投資額	総額に對する%
上 海	一、五一五、〇〇〇	七六、六	一九四九九〇	六四、九	四三〇、一二五	六六、四
香 港	一八四、〇〇〇	九、一	四三三八	一、四	一	一
その他支那	二八四、〇〇〇	一四、一	一〇一、一三四	三三、七	二一七、一六四	三五、六
合 計	一、九七九、〇〇〇	一〇〇、〇	三〇〇、四五四	一〇〇、〇	六四七、三八九	一〇〇、〇

日英米の對支事業投資地方別表 (單位旧平價換算の千円)

この表は、日英米の對支事業投資の地方別状況を、旧平價換算の千円単位で示している。表は、地方別、英米日、投資額、総額に對する%の順に整理されている。

上海は、英米日ともに最大の投資対象であり、英米日ともに総額の約70%を占めている。香港は、英米日ともに投資額が比較的小さいが、英米日ともに総額の約10%を占めている。その他支那は、英米日ともに投資額が比較的小さいが、英米日ともに総額の約15%を占めている。

合計を見ると、英米日ともに投資額は約2000千円に達している。英米日ともに総額の約100%を占めている。

第二表

國別貿易額

(單位千國幣円)

國名	輸				出			
	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
日本	一三六三三八	一三九三三〇	一五、一六	八、二三一	一五、一八	二四、二五	一〇、一九四七	一四、四五
英國	一三四五一三	九八、〇七	一〇、六七	二〇、三三二	一一、七三	四九、七七八	八、五九	六四、八八二
米國	二七、二八五	一七、四六七八	一九、〇〇	一八、五、一三四	一九、六六	九四、三三三	一七、六二	一三、六、三九四
獨乙	九三、二〇〇	一〇、三一八四	一一、三三	一五、〇、五一	一五、九四	一九、一五八	三、五八	二八、九二六
佛蘭西	二二、三三四	一三、三三六	一四五	一八、三一一	一九四	二一、一四二	三九五	二九、二四三
伊太利	一、三四五七	一、三九〇三	一、四〇	一、二、二〇〇	一、三〇	六、七五二	一、二六	七、六九五
其他共計	一〇、三九、六六五	九、九、二一一	一〇、〇〇	九、四、一、五四四	一〇、〇〇	五、三、五、二一四	一〇、〇〇	五、七、五、八〇九

(註)

The Trade of China, 1936 以下依る

各國共本國分のみ

第三表

植民地を含む國別貿易

(單位千國幣円)

國別	一九三四年		一九三五年		一九三六年				
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出			
日本帝國	一四三、六九六	一一八、七三四	二六、四二〇	一五六、〇六九	一一〇、一三五	二六六、一九四	一七〇、七三七	一三四、五五三	三〇、五三八〇
英帝國	三三五、六八四	一九六、一八二	四三、一八六	三二、一三七	一八六、六八六	四〇、七八一	二〇四、二〇一	三二五、三五二	四三九、四五二
米國及屬領	二七六、四五四	一〇〇、三三九	三七六、七九三	一七九、七七七	一四二、〇四二	三二、一八九	一八九、〇九五	一九三、五八九	三八三、六八四
獨逸	九三、三八九	一九、一五九	一一三、五四八	一一二、五四八	二八九、三六	一一三、三一一	一五〇、〇五一	三九、一七三	一八九、二三四
佛蘭西及屬領	六四、〇三一	二七、六〇三	九、六三四	七三、〇二八	三六、三三四	一〇九、三六二	三六、二九六	五六、五二六	九三、八一二
計	六四〇、〇九六	四三三、〇八二	四七六、七九三	五〇九、〇七二	五〇九、三六二	五〇九、三六二	五〇九、三六二	五〇九、三六二	五〇九、三六二

(註) The Trade of China, 1936 に依る

第四表

上海港の貿易額

(單位元)

國別	一九三五年		一九三六年	
	輸入	輸出	輸入	輸出
日本	五六、二五四、一四八	四二、〇二六、六六一	七三、五六五、六八二	四三、二五九、四二四
英國	五八、八一三、七〇〇	二六、一二〇、一四六	六七、九七九、四八三	三七、四三七、三一九
米國	一六五、三八九、〇六〇	八五、二七九、二八三	一三五、〇四四、三七四	一一九、五六〇、三六〇
獨逸	六四、〇九五、五六二	一一、四七五、五二五	一〇七、二八六、一六二	二二、〇四〇、四二〇
計	二四四、〇九七、〇七〇	一六四、一〇二、一六〇	二六三、一三〇、九四九	一三二、三三〇、五四七

(註) 「東洋貿易研究」 昭和十二年二月号二二頁

第七表

國內貿易に於ける上海港の地位

(一九三六年度
單位千圓幣円)

	輸 入	輸 出	再 輸 出	計	同 上 比 率			
					輸 入	輸 出	再 輸 出	計
上 海	四三五、九六一	四四一、〇八七	二一、六二六	八九八、六七四	四九	四九	二	一〇〇
天 津	一一六、一六二	五七、七二五	五一。	一七四、三九七	六七	三三	〇	一〇〇
漢 口	一〇九、七七四	一七六、二九五	二一、二三六	三〇七、二七五	三六	五七	七	一〇〇
廣 洲	一〇六、二四一	三七、〇八〇	一、二七三	一四四、五九四	七三	二六	一	一〇〇
其他共計	一、二〇〇、〇一六	一、一三一、四四四	五三、二五五	二、三八四、七一五	五〇	四八	二	一〇〇

(註) The Trade of China, 1936 に依る

第八表

上海港出入の國別商船數 (一九三六年度)

	外國貿易の場合		國內貿易の場合	
	數	噸	數	噸
日 本	六二〇	六二〇	二三〇	二三〇
英 國	一一二〇	一一二〇	六〇〇	六〇〇
米 國	二七〇	二七〇	?	?

(註) The Trade of China, 1936 に依る

第九表

支那に於ける商船國別表

(一九三六年度)
(單位噸)

日 本	英 國	米 國	獨 乙	佛 蘭 西	伊 太 利	其 他 共 計
外國貿易從事	九,四一八,八五五	一六,一五八,〇五一	三,一二〇,八七五	一,九六五,一三一	一,二三七,二六五	三,八五,三四五
國內貿易從事	二〇,八二	三五,七二	六,九〇	四,三四	二,七三	〇,八五
計	一五,四九四,七二一	四一,一八七,四六四	六五〇,六七四	六五九,三六七	三六〇,二六三	一九三,四七一
	一五,五五三	四一,二三八	〇,六五	〇,六六	〇,三六	〇,一九
	二四,九一三,五七六	五七,三四五,五一五	三,七七一,四七九	二,六二四,四九八	一,五九七,五二八	五七六,八一七
	一七,一八	三九,五四	二,六〇	一,八一	一,一〇	〇,四〇

(註) The Trade of China, 1936 に依る

第十表

支那に於ける國別商船數

(一九三六年度)

日 本 船	英 國 船	米 國 船	獨 乙 船	佛 蘭 西 船	伊 太 利 船	其 他 共 計
隻數	一七,九一一	四八,一五四	三,九七三	五二七	一〇,四八	五,一八
總噸數	二四,九一三,五七六	五七,三四五,五一五	三,七七一,四七九	二,六二四,四九八	一,五九七,五二八	五七六,八一七

(註) The Trade of China に依る

第十一表 歳入中に於ける関稅收入の地位

年	歳入總額	関稅收入總額	対入總額の割合%
一九三〇年	三一三,九八六,六五三	二八四,一〇四	五五
一九三一年	三六九,七四二,六三七	三〇一,八八四	五八
一九三二年	三二五,五三〇,八五〇	二八四,一〇四	五三
一九三三年	三三七,六四七,七六七	三〇一,八八四	四六
一九三四年	三八二,八一四,二四一	三〇一,八八四	四八
一九三五年	三四一,三六一,四〇〇	三〇一,八八四	四三
一九三六年	三一七,九七三,五一四	二八四,一〇四	四一

(註) 一九三三年迄は決算
それ以後は予算

「支那國民政府の財政」に依る

第十二表 関稅收入とその他の内容

年	関稅收入總額	外債及賠償金償還	内債及庫券償還	其他	財政部手取額
一九三三年	三〇六,八五九	八六,三九三	一三二,四〇九	四八,四九五	四九,五七一
一九三四年	三〇一,八八四	七六,〇三九	一四七,一五〇	四六,七三八	三一,九五七
一九三五年	二八四,一〇四	六六,四〇一	一三八,〇七二	五〇,四三一	二九,二〇〇

(註) 外務省調査

第十三表

上海港の関稅收入内譯

(一九三六年度
單位千圓幣円)

關別	輸入稅	輸出稅	轉回稅	噸稅	輸出附加稅	救災附加稅	計
上海	一二三、八九三	四、九八〇	三、九四三	三、〇九三	六、四七〇	六、四八七	二四、八、八、六、九
其他共計	二五四、五三八	二四、四七四	一三、六八四	四、〇三二	一三、九三七	一三、九六五	三二、四、六、三、三

同右比率

	四九	二〇	二九	七七	四大	四大	四大
	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

附錄一 英國關係の航業會社

名 称

資本金

所有隻數、總噸數

(一) 支那航業會社

五〇〇、〇〇〇 磅

八〇隻

一五八、八〇〇 噸

(China Navigation, Co.,)

揚子江航路

隻數

總噸數

上海—漢口線

八

二、八三三

上海—宜昌線

二

五、〇四一

漢口—宜昌線

二

二、五二二

支那沿岸南方航路

上海—太東線

一

二、六〇〇 九

上海—寧波線

一

三、八六八

香港—太東線

一

三、六一六

支那沿岸北方航路

上海—青島線

二

一、七、二〇八

上海—天津線

八

一、七、二〇八

(二)

印度支那航業會社

(Indo-China Navigation Co.)

上海—牛莊線

三

五八九一

支那南北沿岸航路

二

四〇〇二

四〇復

九九三〇〇噸

揚子江航路

復噸

總噸噸

上海—蕪口線

七

二二一八四

上海—宜昌線

二

四八八〇

蕪口—宜昌線

二

三九三二

蕪口—湘潭線

一

一〇六五

宜昌—重慶線

三

三八八一

支那沿岸南方航路

上海—孟東線

六

一三八二〇

支那沿岸北方航路

上海—天津線

四

七九〇四

(三)

祥泰公司

(China Inland & Export Steamer Co. Ltd.)

線名	線 江 杭		料 程	竣工	軌間及線路設備	借款及資本關係	關係國及利權	沿革
青山-玉山	省有	省營	三五〇 料	善午 完成	軌間 四呎八吋半	一 內資 二〇七〇萬元	英 國 中英借款 借款權ヲ 有ス	營業狀態 收支相償ヲ 將來ノ計畫 線路ノ延長ハ玉山 ヨリ西方ニ延長セシ トシテ升ル 先ニ行 ハレタ測量ヲハ玉山 ヨリ西方ニ至リ江西 東部ノ炭礦區域ヲ 經南昌ニ至リ尚 南ニ進ニテ江西省 東部ノ各炭礦區 ヲ過ヤサ埠郷ニ至ラ ントス
金山-玉山	省有	省營	二〇〇 料	一九三〇年 一九三三年	軌間 三十五呎	二 外資 中英借款 金類 二〇萬磅		
金華-玉山	省有	省營	一五〇 料	一九三二年 一九三三年	軌間 假設	期固 十ヶ年 利子 年五分 担保 金玉區 鐵道 產收入及 浙江建設 剩餘金		

(一) 銀行 附錄三 上海に於ける英國金融機關

行 名	總 資 産	本 店	支 店
麥加利銀行 (Chartered Bank of India, Australia and China)	六〇、二九七、五六〇 磅	倫 敦	上海其他
滙豐銀行 (Hongkong and Shanghai Banking Corporation)	九四七、九六二、千香港幣	香 港	上海其他
有利銀行 (Mercantile Bank of India, Ltd)	一五、二九二、〇〇〇 磅	倫 敦	上海其他
大英銀行 (D. & O. Banking Corporation, Ltd)	一四、九五九、〇〇〇 磅	倫 敦	上海其他
新沙遜銀行 (H. D. Saksan & Co., Ltd)	七、三四九、〇〇〇 磅	香 港	上海
華商銀行 (Finance Banking Corporation, Ltd)	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 上海兩 (相當資本)		上海

(三) 投資機關

(1) 一般投資機關

社名	資本金	本店	支店
上海土地投資會社 (Shanghai Loan and Investment, Ltd.)	一、二五〇,〇〇〇 兩		
安利洋行 (The An Li Trust, Ltd.)	三〇〇,〇〇〇 兩		

(2) 特殊投資機關

中英公司 (British & Chinese Corporation)	一、五二〇,〇〇〇 磅	倫敦	上海其他
華中鐵路公司 (The Chinese Central Railways, Ltd.)	一〇一,〇〇〇 磅		
宝林公司 (Panking & Co. Ltd.)		鐵道建設會社にして鐵道借款を行ふ	

大成公司 (Teason & Son, Ltd.)	鐵道請員を主目的とす	倫敦	上海其他
英國工業技術協會 (British Engineering Association in China)	利権獲得事業に関する材料機械の購入を目的とす		

附録四 英國の支那に於ける通信機關

英國の通信事業に對する對支投資は、英國の特殊會社たるケーブルワイヤレストラスト *Cable Wireless Trust Ltd* の統制支配下にある大東電信會社を中心勢力として活躍してゐるのであつて、日本資本の關係ある双橋無線電信台並に米國資本關係の眞祐無線電信台建設により、支那の通信事業は日英米三國の支配下にありと言へ、就中英國大東電信會社は丁扶大北電信會社と共に歴史的にも極めて有力なるものである。

(a) 海底電線

支那に陸揚げされてゐる英國の海底電線は左の如くである。

(一) 大東電信會社 *The Eastern Extension Australasia & China Telegraphic Co.*

上海——福州線	四四六哩
福州——香港線	四九〇哩
香港——マニラ線	五四〇哩
香港——西貢線	九二七哩 (濠洲線に接續)
香港——ブアン(英領ホルネオ)線	一一〇〇哩 (歐洲線に接續)

(一) 英國政府所有線

芝罘——威海衛線

三〇哩

尚英國大東電信會社は前記の丁扶大北電信會社と合同して上海——大沽、芝罘——大沽の海底電信及び電話借款總額七十五万八千磅に應じ、其の成果として兩社は支那に於ける電政の監督權並に前記西海底電線の敷設權を獲得したのである。

(二) 無線電信

香港には大規模の無線電信台を所有し、又威海衛劉公島にも無線電信台を設置してゐる。尚一九一八年、一九一九年に於てはマルコニー會社は無線電話器借款、同次本借款として合計百六万五千二百五磅の借款に應じてゐる。

附録五 上海に於ける英國紡績業

支那に於ける工業中最も進歩發達してゐるものは紡績業であるが、英國はランカシア綿業世界制覇の一培養地として一八九五年頃より支那に於ける紡績工場の設立に力を竭し、世界戦争前には怡和紗廠、揚樹浦怡和紗廠、老公茂、東方及び公益紗廠の五工場——資本金總額五、二〇〇、〇〇〇兩、總鍾數二四六、二九二鍾、織機一、六五〇台を有し支那紡績界の首位を占め、日本は其の半ばにも達せざりしも、今日に於ては其の地位全く轉倒し、英國資本系としては一八九五年創設の怡和紗廠が怡和紡織公司と改稱し、資本金六百万兩を以て三工場を經營するのみに止まり、日本の全支に於ける四十一工場に比すれば全く昔日の隆興の影はない。

紡績錠

最近三ヶ年に於ける全支紡績錠數織機基數を其國籍別に示せば次の通りである。
 (日本興業銀行調査課に依る)

國籍及年次	工場數	精紡錠數		燃絲錠數		織機台數	
		錠數	百分率	錠數	百分率	台數	全支紡百分率
支那 昭和七年	八四	二、四六五、三〇四	五五・六五	一一三、三五八	三二・八〇	一七、八二九	四八・八四
支那 八年	八九	二、六三七、四一三	五七・一九	一三五、八六〇	三三・二五	一九、〇八一	四八・二四
支那 九年	九二	二、七四二、七五四	五七・九七	一四三、〇四二	三二・四七	二〇、九二六	四八・八五
日本 七年	四一	一、七一五、七九二	三九・四三	二三二、二三六	六七・二〇	一五、九八三	四三・七九
日本 八年	四一	一、七九〇、七四八	三八・八四	二七二、七〇〇	六六・七五	一八、五九二	四四・四六
日本 九年	四一	一、八〇三、四八四	三八・一二	二九四、六九一	六六・九一	一九、〇一七	四四・四〇
英國 七年	三	一七〇、六一〇	三・九二			二、六九一	七・三七
英國 八年	三	一八三、一九六	三・九七			二、八九一	七・三一
英國 九年	三	一八四、九〇八	三・九一	二、八二〇	〇・六二	二、八九一	六・七五

製産高

過去三ヶ年に於ける全支紡績の生産を同じく國籍別に比較すれば次の如くである。
 (日本興業銀行調査課に依る)

國別及年次	棉花消費高(擔)			綿絲製産高(捆)			綿布製産高(反)		
	錠數	百分率	台數	錠數	百分率	台數	錠數	百分率	台數
支那 昭和七年	五、四一一、九八七	一四・二七	九一九	八、二四二、六〇四	二四・二七	六〇四	一〇、一九〇、九七〇	二九・二七	七〇四
支那 八年	五、八一四、六四四	一六・六五	〇四四	九、五四八、〇七五	二七・二七	六七五	一〇、一七三、八二五	二九・二七	七〇四
支那 九年	五、七四八、六七四	一六・六一	八〇九	九、〇三九、九八七	二六・六五	六八七	一〇、一七三、八二五	二九・二七	七〇四
日本 七年	三、四一〇、九〇五	八・四五	九七九	一〇、一九〇、九七〇	二九・二七	七〇四	一〇、一九〇、九七〇	二九・二七	七〇四
日本 八年	二、五七〇、五七二	七・四五	六四〇	八、七二三、八二五	二五・二七	六四〇	八、七二三、八二五	二五・二七	六四〇
日本 九年	二、九二〇、四三〇	八・四五	八〇二	一、五八四、九六八	四・四五	九六八	一、五八四、九六八	四・四五	九六八
英國 七年	三、三〇〇、〇〇〇	九・四五	〇〇〇	一、八四〇、〇〇〇	五・四五	〇〇〇	一、八四〇、〇〇〇	五・四五	〇〇〇
英國 八年	三、二〇〇、八〇三	九・二〇	〇〇〇	一、八四〇、〇〇〇	五・四五	〇〇〇	一、八四〇、〇〇〇	五・四五	〇〇〇
英國 九年	二、八六六、六六三	八・四五	二二三	一、八四〇、〇〇〇	五・四五	二二三	一、八四〇、〇〇〇	五・四五	二二三

附録六 英國の上海に於ける造船所

英國資本の支那造船業は上海にある左記の三廠あるのみ、而して其の詳細は次表の如くである。

廠名	成立時	資本金	長(呎) 船	寬(呎) 塢	深(呎)
耶松船塢廠	光緒廿二年	五五二〇、〇〇〇兩	五三 五二 〇八一	七七 〇四 七	二二 一三四
瑞鎔機器廠	光緒廿六年	五〇〇〇、〇〇〇兩	五六〇	六〇	二九
祥生機器廠					

附録七 英國の支那に於ける其他の工業

英國の對支投資關係中以上の外の工業として煙草製造業がある。支那に於ける巻煙草製造は英米煙草トラストが絶對的優越地位を占めてゐたが、今日では全く英國資本のみとなり漢口、天津、上海、青島、香港等に大工場を有し、六社の子會社を有する英米煙草會社は資本金二億二千五百萬元を擁し、支那の煙草製造業に於ける一大勢力を把持して居る爲めに、日本の東亞煙草會社、支那の南洋煙草兄弟公司、華成煙公司及正昌公司等の受くる掣肘は甚だ大なるものがある。

尚以上の外に、洋灰、化學製品、小麥粉等の製造を初め皮革、羊毛、毛皮等を調製する工場に至る迄、其の種類は極めて雑多である。

附録八 英國の支那に於ける石油販賣業

アジア石油會社はローヤル・ダツチ・シエルの一支網として英國石油トラストを代表し、世界石油業に於ける英國の支配的勢力擴張の爲めに、米國及公露西亞と對抗し設けらるる英國の世界石油政策に基く全支石油配給網は、亞細亞公司 *East Asiatic Petroleum Co.* の統制下に米國資本に對峙して居り、全支重要都市には支社、出張所を設けてゐる。同社は資本金五十萬磅、拂込済四十五萬六千磅にして、上海に收容力六千噸の倉庫を設け、支那に於ける石油會社として財政頗る鞏固、營業上に於ける信用は極めて大である。



